

第2章

doi: 10.18999/bulsea.63.123

国内拠点 グローバルディスカッション

湯 浅 郁 也

(1) 概要

今年度、本校が、名古屋大学と連携して夏季休暇を利用して8月に名古屋大学で行ったイベントである。金城学院高等学校、名古屋国際中学校・高等学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校、神戸大学附属中等教育学校、名古屋大学教育学部附属中・高等学校が参加した。

社会のグローバル化が進む中、日本国内でも中等・高等教育の急激な国際化が求められ、将来、高校と大学が連携して行うことができる国際的な人材育成教育（高校3年+大学4年）を行う。ここでは名古屋大学のG30国際プログラム郡に参加している留学生11名を議論のリード役とし、すべての議論が英語で行われた。テーマは「自由主義経済と保護主義経済の衝突～日本はどうあるべきか～」についてである。

(2) 目的

仮説検証型課題研究「課題探究Ⅱ」での探究と、「協同的探究学習」で身につけた国際的素養を国内のグローバル拠点で活用し、勇気と判断力を身につける。また、課題研究の内容に繋がるテーマについて、世界各国からの留学生や多くのSGH校の生徒との討論を通して、SGH校の生徒同士が切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら成長することを目的とする。プロジェクトは英語を基本として行われるが、スキルとしての英語力向上ではなく、英語を通して論理的に他者に表現し、コミュニケーションをとる能力の向上を目指す。昨年より引き続いたものを含め以下にあげ、本取り組みの目的とする。

- ・グローバル化に関して、経済学を中心とした社会的な視点で、自分たちが将来のグローバル社会の中で活躍するためにどのような能力が必要なのかを名古屋大学の留学生と一緒に考える。
- ・本イベントを英語で行うことにより、英語を通して論理的に他社に表現し、コミュニケーション能力の向上を目指し、課題発見・課題解決力、合意形成力、妥協力を育成する。
- ・ディスカッションを通してSGH校の生徒同士が切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら成長する。

(3) 内容

名古屋大学内に国内グローバル拠点を置き、「地球的課題」に関して、大学教員や留学生TAと一緒に解決法を考えるプロジェクト(Global Discussion)を開催する。

Global Discussionは、本校以外にも多くのSGH校の参加を呼び掛け、「地球的課題」について、インターネットや図書館機能などICTを駆使して、他校の生徒と共に解決法を提案し、プレゼンテーションを行う。また、発表内容に応じて表彰もする。

さらに、大学教員による小講義やフィードバックなども随時交えながら次世代のグローバル・リーダーをSGH校同士の連携のなかで育成する。

基本的な枠組みは名古屋大学の教員の土井康裕（経済学研究科・准教授）と高校の教員で事前に相談し、設定した。それを踏まえ、名古屋大学のG30国際プログラム群に参加している留学生TA11名を議論のリード役のために雇用し、具体的なイベントの企画や高校生とのディスカッションを中心とした、グループ運営を任せた。当日のプログラムは以下の通りである。

タイムテーブル：

1日目 8月21日(月)

- 9:30 受付開始
- 10:00 ウォームアップ グループ活動
- 11:00 グループディスカッションの
実施方法説明
ディスカッショントピック提起
- 12:00 (昼食)
- 13:00 ディスカッションⅠ
(休憩)
- 15:00 小講義
ディスカッションⅡ
- 17:30 SGH生徒交流会
(於 大学生協)

2日目 8月22日(火)

- 9:00 小講義
ディスカッションⅢ
- 11:30 (昼食)

- 13:00 各グループによる発表
- 15:30 振り返り
大学教員によるコメント
- 16:00 解散

(4) 二日間の様子



留学生TAの代表によるwarm-upの説明



Warm-upのデモンストレーション



Warm-upへの取り組みの様子



英語でのグループディスカッションの様子



小講義の様子 土井康裕（経済学研究科・准教授）



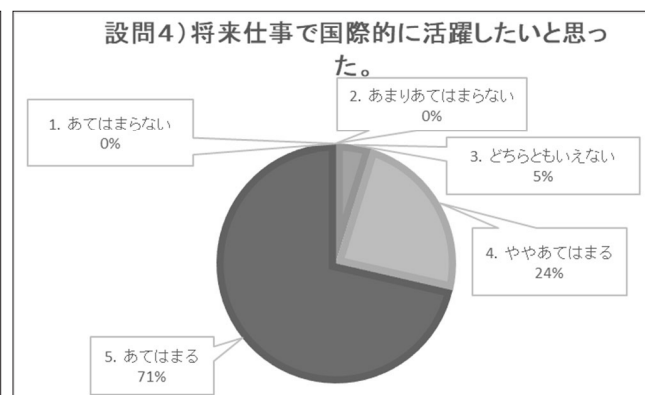
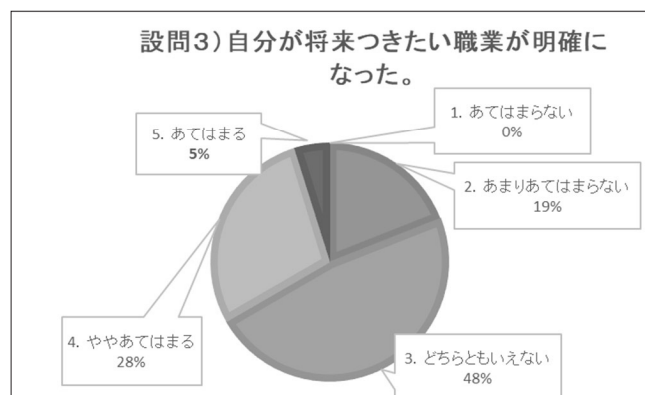
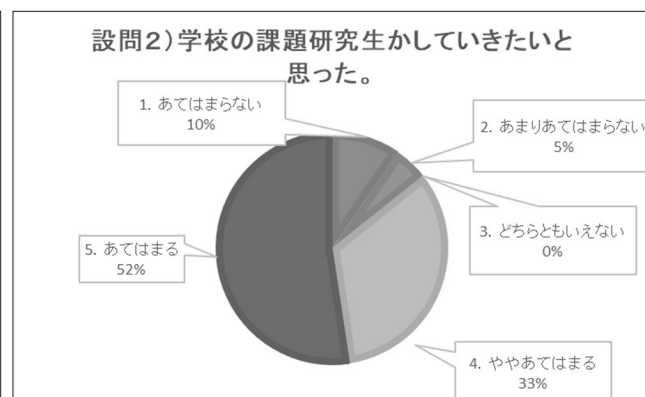
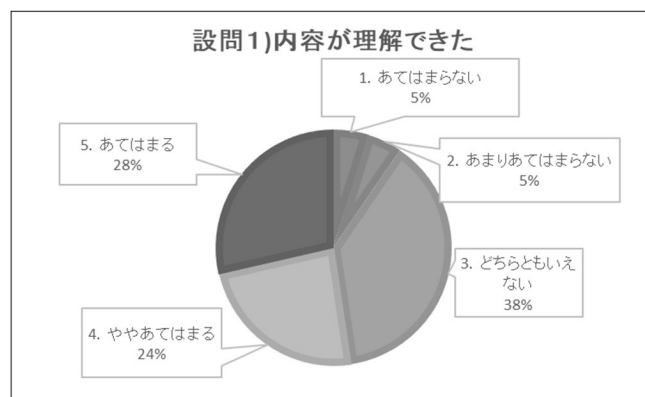


グループ発表の準備をする生徒の様子



生徒による発表の様子

(5) アンケート結果



※Global Discussion 2017振り返り生徒アンケートの結果 (5件法)

(6) 参加高校生の感想

以下は参加した生徒の感想である。

①テーマに関して

- ・非常に難しかったですが、それだけ面白さもあり、楽しめたので良かったです。深い内容は面白さも一段と上がると思いました。
- ・少し難しかったけど、日本と世界のつながり方が一つの方面から知れて、とても勉強になってこれから生き

ていくのにすごく役に立ちました。

- ・前から結構経済とかビジネスに興味があったので、レクチャーとかディスカッションも楽しかったです。また、faire tradeとprotectionismが正確に理解することができました。
- ・テーマはとても難しかったです。身近なことから私達が普段考えないような内容まで考える必要があったので、そこが難しかったです。また、ディスカッションでは自分が一番つたえたいことを明確にすることの大

切さを学びました。

- ・テーマは最初はとっても難しい内容だったけど、グループのみんなと一緒によく話し合い、自分たちの分かり易いようには理解はできるテーマでした
- ・テーマは日本語でも難しいのに、英語で他校の人とやったのが大変だった。グローバルな問題で今後考えていく必要がある。
- ・難しかったけど、両サイドの意見をメリットとデメリット両方話し合っって色々なDiscussionのポイントも学べた。社会的+個人+企業など色々あったからいいテーマだと思う。
- ・普段あまり触れることのない題材で、これからもあまりかかわらないかなと思ってたけど、「経済」というものをいつもより身近に感じました。大学でももっと勉強してみたいと思いました。

②ディスカッションに関して

- ・ディスカッションは最初のほう自分の意見をみんなの前で言うのが難しかったが、2日目にはチームワークを通して良いディスカッションをすることが出来たし、スキットも頑張ることが出来た。
- ・ディスカッション、最終プレゼンが全て英語なのは初めての経験だったので、改めて自分の英語力の無さを痛感しました。内容は難しかったけれど考えれば考えるほど様々な疑問やアイデアが出てきました。
- ・私は元々ディスカッションを含む面接に落ちたのがきっかけで参加しました。最初の自分の意見を言う目標が達成でき、また新たに自分の考えをしっかりと整理するという目標が出来て良かったです。
- ・英語でサポートしてもらい聞こうとする意識も持てた。相手の意見を聞くことで、視野を広げられたし、「誰にとって」は大切だと思う。利益が出る人もいれば不利益な人もいる。
- ・聞き取ることもそれに対して話すことも難しかったので、もっと勉強してディスカッション出来るようになりたいです。

※Global Discussion2017振り返り生徒アンケートの結果抜粋（記述式）

（文責 湯浅郁也）